

きくちちくあん はか
菊池竹庵の墓

分類：有形文化財

町選定文化財

菊池竹庵は、文政12年（1829）平山瑞堯^{ずいぎょう}に生まれました。竹庵という名は僧名です。彼は、5歳の時に西之表の慈遠寺の小僧となり、その才能が認められ、10歳から鹿児島島の正建寺（種子島家菩提寺）で修行しました。

19歳の時、青雲の志を抱き上洛し、一時大阪で医術を修めましたが、再び仏門に戻り伊賀の法華寺に身を置き、尊王派の志士と交際を深め、尊王攘夷を志し奔走しました。また、江戸滞在中に武芸にも取り組みました。その後、京都本能寺本法院（塔中）の執事となりました。彼は、尊王派の志士と交流があったことから、一時、新撰組に捕縛されました。釈放後は、本能寺の末寺・東漸寺の役僧となっています。

大政奉還後、天皇を中心とする明治新政府が樹立しましたが、不満をもつ旧幕府方と明治元年（1868）に戦が始まりました（戊辰戦争）。新政府軍は江戸城にいる旧幕府方を攻めるために東征し、竹庵は自ら進んでその道案内と敵の様子を探る役を申し出ました。進軍の途中、上総国（千葉県）の五井に旧幕府方の軍勢が待機しているとの情報が入ったので、その敵情を探るため果敢にも夜間に忍び込みましたが、敵に見つかり殺害されてしまいました。

竹庵の遺体は、上総の八幡駅の円頓寺に仮埋葬され、明治3年3月22日、東京の大円寺に改葬されました。碑文の中に緇徒^{しと}（僧侶の意味）の身をもって義にたおると記されています。その後、故郷の平山神社境内にも墓が建てられました。竹庵の忠義に対し、明治天皇から父親に報奨金が贈られ、士族としての身分も与えられています。



菊池竹庵の墓（平山神社境内）